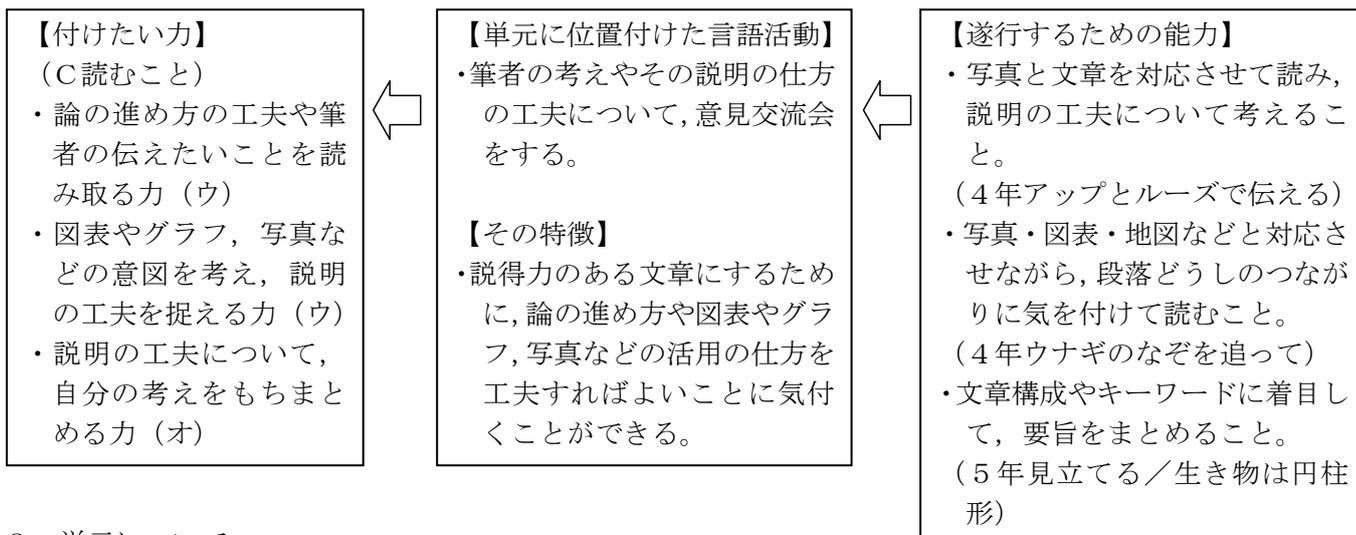


第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成29年 9月28日 (木) 5校時
児 童 5年2組 男16名 女16名 計32名
指導者 佐々木 圭子

- 1 単元名 説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう
教材名 「天気を予想する」 (光村図書 5年)

2 単元に位置付けた言語活動



3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、説明的文章の文章構成(はじめ・中・終わり)を理解し、各段落の要点、段落ごとのつながりをもとに、筆者の考えを捉える学習を積み重ねてきた。5年生の「見立てる」「生き物は円柱形」では、要旨を捉える学習をしている。その際、これまでに学習した段落ごとのつながりや文章構成を中心に、例の挙げ方や繰り返し使われている言葉(キーワード)、文末表現などをヒントに、筆者の最も伝えたい事柄を読み取ればよいことを学んできている。しかし、叙述をそのまま書き抜くだけに留まり、中心を捉えて読む力や、中心となる語や文を捉える力が十分に身に付いているとはいえない。

交流活動については、国語科に限らず、ペアやグループ、目的に応じて相手を探すという形態で、自分の考えの不確かさについて話し合ったり、疑問点について教え合ったりすることを経験している。この経験を通して、交流後に自分の考えを修正したり、確かなものにしたりすることができるようになってきている。しかし、友達から学んだり、自分の考えを高めたりするまでに至らないこともある。また、交流する相手を決められず、学びを深めることができない児童もいるため、交流の目的によって、意図的にペアやグループを設定するなどの手立てを講じる必要がある。

(2) 教材について

小学校学習指導要領における第5学年及び第6学年「C読むこと」領域の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。また、本単元の指導事項は、「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。」である。

本教材は、文章全体を覆う大きな問いは存在せず、1つの問いに対する答えの中から新たな問いが生まれるという関連性をもって、問いと答えが3回繰り返される構成となっている。読み手の思考の流れに沿いながら、自分の主張へと徐々に論の方向性を近付けるような展開であるといえる。また、筆者の考えについて、自分なりの感想をもつことを基軸とし、文章の構成、図表やグラフ、写真の効果的な使用、数値を挙げての説明など、説明の仕方の工夫を読み取り考える学習が位置付けられ、指導に適した教材である。

(3) 指導にあたって

【研究内容1 言語活動を充実させる単元構想】

本単元は、「筆者の考えやその説明の仕方の工夫について、意見交流会をしよう」ということを単元のゴールとして設定する。そのために、「文章構成の工夫」と「資料の活用」の2点について、これまで学習してきた説明的文章との違いを意識させる。また、筆者がどのような意図で、説明の仕方の工夫をしたのか、自分なりに考えさせる活動を仕組みながら、指導にあたりたい。

【研究内容2 思いをもって伝え合う言語活動】

第一次では、「天気を予想する」の通読後、これまでの学習してきた説明的文章との説明の仕方の違いを取り上げる。その上で、本単元で、「説明の仕方の工夫を見付けよう」という単元の学習課題を設定する。

第二次では、三つの問いと答えの連続する文章構成の工夫と、図表やグラフ、写真などの資料の活用について捉え、そこにはどのような筆者の意図があるか考えさせる。文章構成については、これまで学習した「初め」「中」「終わり」とは違う構成であることに気付かせ、どのように三つの問いが関連しているか考えさせることで、読み手の思考の流れに沿いながら、自分の主張へと論を進める構成であることを理解させる。資料の活用については、資料がなかったら読み手がどのように感じるか考える中で、なぜ筆者が資料を用いて説明しているか話し合わせたい。

第三次では、第二次で読み取った説明の仕方の工夫についてまとめた自分の考えを交流し合う活動を設定し、その工夫と意図について確かめ合いたい。

【研究内容3 高まりを自覚させる振り返り】

単元の学習を通して見付けた説明の仕方の工夫を、「説明文 学習アイテム」の一つに加え、新しい学びができた充実感を味わわせたい。また、この学びが、次の「グラフや表を用いて書こう」で活用できるという見通しをもたせ、次単元の学習につなげていきたい。

4 単元の指導目標及び評価規準

(1) 単元の指導目標

○題材や筆者の考え、文章構成や資料の効果に興味をもって読もうとしている。

(関心・意欲・態度)

◎筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について考えをまとめて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むことウ)

○筆者が伝えたいことを考えながら読むことができる。(読むことウ)

○文や文章にはいろいろな構成があることを理解し、文章の中で語句と語句との関係を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ (オ))

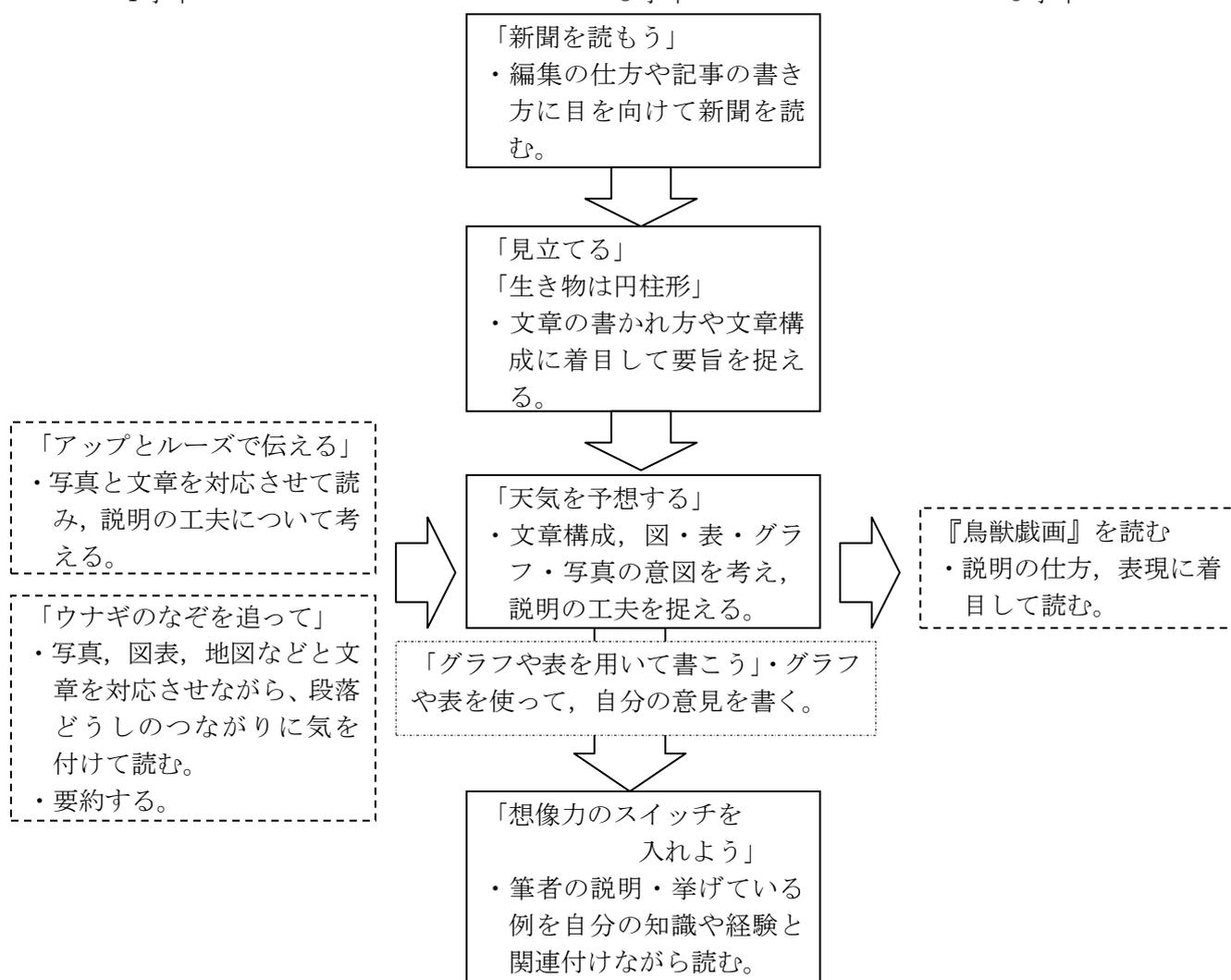
(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・題材，筆者の考え，説明のしかたに興味をもって読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が事例，理由や根拠として挙げている事実を読み取っている。 ・筆者の説明の工夫やその効果が表れている部分に気付き，読み取っている。 ・筆者の主張，根拠をとらえ，筆者の主張について自分の考えをもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語の関係に気を付けることで，文の意味が捉えやすくなることに気付いている。

5 単元の系統性
4 学年

5 学年

6 学年



6 単元の指導計画及び評価計画（7時間扱い）

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一次 1時間	①「天気を予想する」を読んで，これまでに学習した説明文と比較し「説明の仕方の工夫を見付けよう」という学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気や天気予報に関する知識や経験を交流し，教材を読む構えをつくる。 ・筆者の表現の工夫に着目する学習であることを共通理解させる。 	【関】 これまでの学習と学習課題を関連させながら学習の見通しをもっている。（観察・発言）

二次	②三つの問いと答えを読み取り、文章構成を捉える。 (本時)	・三つの問いと答えを読み取り、これまでに学習した説明文との文章構成の違いに気付かせる。	【読】三つの問いと答えを確かめながら読み、文章構成を捉えることができる。(発言・ノート)
	③文章構成と説明の仕方の工夫を捉えることができる。	・三つの問いと答えが連続するという文章構成にした筆者の意図と、その効果について考えさせる。	【読】三つの問いと答えの関連を読み取り、筆者の説明の仕方の工夫を考えて読んでいる。 (発言・ノート)
	④⑤図表やグラフ、写真、数値を使う意図やその効果について考える。	・文章以外に使われている資料を分類し、それぞれを用いて説明している意図を考えさせる。	【読】図表やグラフ、写真、数値を使う意図やその効果について気付いている。(ノート・発言)
	⑥要旨を捉え、筆者の説明の仕方の工夫について、自分の考えを書きまとめ、交流する。	・要旨をまとめ、それに至るまでの論の進め方や説明の仕方の工夫などについて書かせる。	【読】要旨をまとめ、筆者の説明の仕方の工夫について、自分の考えをまとめることができる。
5時間			
三次	⑦筆者が伝えなかったことや説明の工夫について、意見交流会をする。 単元の学習を振り返り、まとめる。	・友達と交流し合い、説明の工夫について学びを確かなものにさせる。 ・単元で学んだ説明の工夫を、次の学習(グラフや表を用いて書こう)で活用できそうだという見通しをもたせる。	【関】交流を通して、自分の考えの深まりに気付いている。(ノート)
1時間			

7 本時の指導

(1) 本時の目標

「天気を予想する」を読み、文章構成を捉えることができる。

(2) 評価規準

三つの問いと答えを確かめながら読み、文章構成を捉えることができる。

(努力を要する児童への支援：段落の書き出しに着目させ、問いに対する答えを見付けさせる。)

(3) 思いをもって伝え合う言語活動について

① 目的と読みの視点を明らかにした活動について【言語活動1】

目的・・・文章構成を捉えるために読む。

読みの視点・・・三つの問いの後の段落の書き出しに注目させ、段落どうしのつながりに気付かせる。

② 考えを形成し交流し合う活動について【言語活動2】

「天気を予想する」を、「初め」「中」「終わり」の3つに区切る活動を仕組み、これまでの説明的文章と違いがありそうだとの思いをもたせる。その上で、自由に文章構成を考えさせ、自分の考えた文章構成について交流し合う場面を設定する。交流では、自分の不確かだった考えを確かなものにしたたり、悩んだり困ったりしている段落について相談したりすることも認める。交流後に自分の考えを再構築する時間も設け、考えの深まりや高まりを実感させる。

